

大腸癌研究会プロジェクト
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

- 研究 1 (日米共同) pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準 (大腸癌治療ガイドライン)」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成
研究 2 (日英共同) pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究 (Formula One Study)

第 14 回会議議事録

2024 年 1 月 25 日

浜松町コンベンションホール 「メインホール」 + web

■出席者 (50 音順、敬称略)

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一
- 委員 (50 音順)：秋元直彦、味岡洋一 (欠席)、池松弘朗、石黒めぐみ、石原聡一郎 (代理：佐々木和人)、市川一仁、浦岡俊夫、大内彬弘、大沼忍、岡志郎、奥山隆 (欠席)、勝又健次 (欠席)、金光幸秀、河内洋、桑井寿雄 (代理：田丸弓弦)、小嶋基寛、小林宏寿、小森康司、小西潤 (代理：今野真己)、斎藤彰一、齋藤裕輔 (欠席)、斎藤豊、坂本一博、島崎英幸 (欠席)、菅井有 (欠席)、関根茂樹、高松学、田中信治、富樫一智、中井啓介、永田信二、中村好宏 (欠席)、藤盛孝博 (欠席)、福長洋介 (欠席)、堀田欣一、松下弘雄、松田健司、山田一隆、山田真善、山野泰穂、吉田直久、梶原由規 (事務局)
- オブザーバー 26 名

■会議内容

1. 研究 1 (Nomogram study)

(1) 進捗状況について

主解析論文の一つである『Treatment decision for locally resected T1 colorectal carcinoma – Verification of the Japanese guideline criteria for additional surgery based on long-term clinical outcomes』が Am J Gastroenterol 誌に accept されたことと、2つの副次的解析論文が Gastroenterology 誌と Annals of Surgery 誌に掲載されたことが報告された。

- ◆ Minamide T. et al. Impact of lesion location on recurrence after resection of T1 colorectal cancer: post-hoc analysis of a nationwide multicenter cohort study. **Gastroenterology** 2024;166(1):198-201.
- ◆ Ouchi A. et al. How Does Omitting Additional Surgery after Local Excision Affect the Prognostic Outcome of Patients with High-risk T1 Colorectal Cancer? **Annals of Surgery** 2024;279(2):290-296.

その他の副次的解析について、各担当委員より進捗状況が報告された。

(2) Nomogram の公開について

金光委員より、大腸癌研究会のホームページで公開する T1 大腸癌のリンパ節転移リスクの評価に用いる nomogram の β 版が紹介され、用語等の修正等を加えた上で、公開を開始することが確認された。

(3) その他

事務局より、リンパ節転移リスクが皆無であるにもかかわらず再発を来した症例について、別途研究計画書を作成し、IRB 承認を得たうえで病理所見等を検討することが連絡された。

2. 研究 2 (F1 study)

(1) 進捗状況について

事務局より本邦の T1 大腸癌 1000 例分のデジタルスライドデータのうち、約 8 割について病理所見評価を完了したことが報告された。

(2) 副次的解析について

現在計画されている 5 つの副次的解析を開始することがアナウンスされた。